

予 算 要 求 資 料

令和5年度当初予算

支出科目 款：農林水産業費 項：畜産業費 目：畜産研究費

事業名 家畜性判別胚供給事業費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

畜産研究所 電話番号：0577-68-2226

E-mail：c24509@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 1,919 千円 (前年度予算額： 1,822 千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	1,822	0	0	88	1,734	0	0	0	0
要求額	1,919	0	0	88	1,831	0	0	0	0
決定額	1,919	0	0	88	1,831	0	0	0	0

2 要 求 内 容

(1) 要求の趣旨(現状と課題)

乳牛改良により酪農経営の安定化を図るため、乳用牛の性判別胚(受精卵)を希望する酪農家に譲渡するとともに性判別胚利用の実技支援を行う。

実施期間 平成20年～

(2) 事業内容

性判別胚の譲渡に必要な経費 1,919千円

(3) 県負担・補助率の考え方

(4) 類似事業の有無

3 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
旅費	94	全国会議等への参加経費
消耗品費	1,346	性判別胚等にかかる消耗品（性判別キット、性腺刺激ホルモン等）
原材料費	479	人工授精用精液
合計	1,919	

決定額の考え方

--

事業評価調査書（県単独補助金除く）

新規要求事業

継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか

高能力乳用牛の雌胚及び雌選別精液利用胚を年間66卵程度県内の酪農家へ供給し、県内乳用牛の改良を促進し酪農経営の向上に資する。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前 (H19)	R3年度 実績	R4年度 目標	R5年度 目標	終期目標 (R5)	達成率
①優良雌胚の譲渡	0胚	34胚	60胚	66胚	66胚	52%
②農家が所有する受精胚の雌雄判別	0胚	0胚	10胚	10胚	10胚	0%

○指標を設定することができない場合の理由

（これまでの取組内容と成果）

令和2年度	<p>取組内容</p> <ul style="list-style-type: none"> 高能力乳用牛由来の雌胚を60胚以上県内酪農家へ譲渡する。 農家が所有する胚の雌雄判別を10胚以上実施する。 <p>成果</p> <ul style="list-style-type: none"> 雌胚を67胚県内酪農家へ譲渡した。 凍結された雌胚の融解方法を獣医師や受精卵移植師に指導した。
令和3年度	<p>取組内容</p> <ul style="list-style-type: none"> 高能力乳用牛由来の雌胚を70胚以上県内酪農家へ譲渡する。 農家が所有する胚の雌雄判別を10胚以上実施する。 <p>成果</p> <ul style="list-style-type: none"> 雌胚を34胚県内酪農家へ譲渡した。 凍結された雌胚の融解方法を獣医師や受精卵移植師に指導した。
令和4年度	<p>令和6年度当初予算にて追加</p> <p>指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___ %</p>

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

・事業の必要性(社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断) 3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない	
(評価) 3	<ul style="list-style-type: none">・乳用牛の改良は雌牛の改良が中心になる。世界情勢の変化に伴う原油価格の高騰・円安による飼料価格の高騰などで農家経営の存続が危ぶまれている中、乳用牛の改良促進による農家経営の向上は重要である。・雌雄判別技術は特殊施設や多くの機械器具を必要とするため、開業獣医師や受精卵移植師では対応できない。
・事業の有効性(指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか) 3：期待以上の成果あり 2：期待どおりの成果あり 1：期待どおりの成果が得られていない 0：ほとんど成果が得られていない	
(評価) 2	<ul style="list-style-type: none">・高能力乳用牛の雌胚のニーズは多く、生産が追い付かない時もあるが、H20年から取り組み、指標の9割以上を達成できている。
・事業の効率性(事業の実施方法の効率化は図られているか) 2：上がっている 1：横ばい 0：下がっている	
(評価) 2	<ul style="list-style-type: none">・研究成果により効率的に胚の生産ができるようになった。

(今後の課題)

・事業が直面する課題や改善が必要な事項 <ul style="list-style-type: none">・ニーズに十分対応できる高能力乳用牛の雌胚の生産・利用者が簡単に利用できる(庭先融解など)凍結方法の確立
--

(次年度の方向性)

・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか <ul style="list-style-type: none">・ドナーとなる高能力乳用牛を効率的に生産する技術の開発を重点研究で令和2年度から実施している。
